

令和4年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立両城中学校
(両城中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学	理科
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0	
令和8年度	—	—	—
令和7年度	—	—	—
令和6年度	—	—	—
令和5年度	—	—	—
令和4年度	+3.0	+8.6	+3.7

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p>国語</p> <p>本校 <u>72.0%</u> 全国 <u>69.0%</u> 県 <u>69.0%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎「表現の技法について理解しているかどうかをみる」問題（設問3―1）の正答率が36.4%である。例文を読んで同じ表現の技法が用いられていることは理解しているが、「比喩」という言葉と結び付けて表現の技法を理解することに課題がある。 ◇文学的な文章や詩に用いられている表現の技法や漢字を正しく理解することに課題がある。</p> <p>改善の方策</p> <p>◎文学的な文章や詩の学習の際に、用いられている表現の技法を考え確認することや、表現の技法を使って短文を作る学習を継続して行う。 ◇適切に漢字や技法を用いて表現する場を設定する。</p> <p>検証</p> <p>◎全国学力（設問3―1）の類似問題を実施（3年生、11月）目標値75%→83% ◇標準学力調査（1・2年生、12月）全国平均との差+5.0 →1年生：全国平均との差-2.8，2年生：全国平均との差+1.4</p>
<p>数学</p> <p>本校 <u>60.0%</u> 全国 <u>51.4%</u> 県 <u>50.0%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎ある予想がいつでも成り立つかどうか（反例の意味）を示すことについての理解に課題がある。【図形】（全国平均との差-1.7%）箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることについての理解に課題がある。 【資料の整理】（全国平均との差-0.9%） ◇図やグラフから、特徴や量を読み取ることに課題がある。百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることに課題がある。</p> <p>改善の方策</p> <p>◎数学で得られた知識を技能の習得に偏るのではなく、日常的な場面に活用できるように、日々の授業のなかで考える場を設定する。 ◇日常の具体的な場面に対応させたり、図や式などを用いて数量関係を表したりする活動を通して、力を身に付けさせる。</p> <p>検証</p> <p>◎全国学力（設問3，設問7（2）の類似問題（第3学年11月）目標70% → 結果63%（12月）→85%（2月） ◇標準学力調査（1・2年生、12月）全国平均との差+5.0 →1年生：全国平均との差-1.5，2年生：全国平均との差-1.4</p>
<p>理科</p> <p>本校 <u>53.0%</u> 全国 <u>49.3%</u> 県 <u>49.0%</u></p>	<p>重点課題</p> <p>◎おもりに働く重力とつり合う力の矢印を正しく選択し、その力について説明する力に課題がある。実験した経験をもとに、正しく認識する力に課題がある。（正答率9.1%） ◇観察や実験などで得た結果をもとに、分析したり、自分の予想を見直したりすることに課題がある。</p> <p>改善の方策</p> <p>◎力を矢印で表現すること、その力を正しく説明することについての学習活動を設定する。力の学習だけでなく、他の実験内容においても、作図すること、説明することについての学習活動を設定する。 ◇予想→実験→結果→考察という学習の過程を大切にす。実験前の予想と結果を比較・検討させ、自分の考えを見直しさせる。</p> <p>検証</p> <p>◎自作作成問題で類似問題（第3学年12月）目標50% → 結果50%</p>

【来年度に向けて】

来年度も引き続き各教科の見方・考え方を働かせた思考力・判断力・表現力の育成に向けて取り組むとともに、課題を個に応じた支援につなげていくことで学力の向上を図りたい。